

令和5年度 研究の概要

A6②グループ

㊟ 荒子小 河合 皓太
広路小 小田 裕子

㊟ 高針小 森山 遼
前山小 飯田 祐介

数学的に考える力の育成

－6年「比とその利用」の指導を通して－

1 単元の目標

比について、その表し方や比の値、等しい比の意味を理解し、割合が比で表された問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに、日常生活や社会の事象に活用しようすることができるようにする。

2 単元を通して目指す児童像

単元の第1時に、二人でお金を出し合って買い物をする場面から、「割合を基に実際に払う金額を求める方法について考えたい」という解決したいことを見付け、第2時以降、比を活用して解決した結果を統合し、日常生活や社会の事象に活用することができる児童

3 手立て

手立て① 第1時に、けんたさんとお兄さんの二人でお金を出し合って買い物をする場面を設定し、それぞれ何円ずつ出すとよいかを考えさせ、様々な考え方があることに気付かせる。その後、二人の年齢、一か月のお小遣い、一日のゲームの使用時間の三つの条件と、「お兄さん5500円、けんたさん4500円だとどうか」と不都合が生じそうな考えを提示し、その考えが不都合が生じそうな根拠を数学的な見方・考え方を働かせて考えさせることで、「割合を基に実際に払う金額について考えたい」という解決したいことを見付けることができるようにする。

手立て② 第2時以降、本時の問題を提示した後、前時までの問題との共通点や相違点を見付け、前時までの学習で使いそうなことを考えさせる。そして、自力解決後に、本時の解決方法と前時までの解決方法を比較させ、共通点を見付けさせる。そこで、単元を通して、同じような数学的な見方・考え方を働かせることで、解決した結果を統合することができるようにする。

4 検証方法

手立て① 第1時に、二人でお金を出し合って買い物をする場面を設定し、その後、問題の条件と不都合が生じそうな考えを提示し、その考えが不都合が生じそうな根拠を数学的な見方・考え方を働かせて考えさせることで、その単元で解決したいことを見付けることができたか、ノートの記述から検証する。

手立て② 第2時以降、本時の問題を提示した後、前時までの問題との共通点や相違点を見付け、前時までの学習で使いそうなことを考えさせ、自力解決後に、本時の解決方法と前時までの解決方法を比較させ、共通点を見付けさせることで、解決した結果を統合することができたか、ノートの記述から検証する。

5 単元計画

【第1時】

教師の主な働きかけ	児童の主な反応
問題 けんたさんは、お兄さんとお金を出し合って10000円のゲームを買います。けんたさんとお兄さんはそれぞれいくらずつお金を出せばいいでしょう。	
T: いくらずつお金を出せばいいですか。	C: 平等に5000円ずつがいいです。 C: 私は、お兄さんの方がたくさん出すべきだと思うから、7000円と3000円かな。 C: 二人の年齢によっても、変わってくると思うよ。
T: なるほど。では次の条件ならどうですか。	C: お兄さんが4歳も年上だから、お兄さんが多く出したらいいと思う。

